

第3 問題作成部会の見解

1 問題作成の方針

本年度も、高等学校学習指導要領に従い、教科書に準拠した問題作成を実施した。「現代社会」という科目の特性を考慮に入れつつ、政治的中立性と学問的正確さに配慮し、受験者に知っておいてほしい重要かつ今日的な時事問題にも触れつつ作題した。

(1) 分野のバランス

作題に当たっては、設問が特定分野に偏らないよう、高等学校学習指導要領に従って作題した。「現代に生きる私たちの課題」と「現代の社会と人間としての在り方生き方」の二つの大項目間の、さらには、後者の大項目のうち「現代の社会生活と青年」、「現代の経済社会と経済活動の在り方」、「現代の民主政治と民主社会の倫理」、「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の四つの中項目間のバランスを図るよう配慮した。また、複数の分野を総合した問題、現代的テーマに即した、受験者になじみのあるテーマを設定して作成するなど、「現代社会」科目に固有の作題を試みた。

(2) 問題の量

昨年度と同様、受験者の負担も考慮しつつ、大問6題（小問36題）にした。リード文の長さ、問いかけ文の長さ、選択肢の文章の長さについても同様の配慮をした。

(3) 出題形式・内容

各大問は、リード文を読み、文中の下線を引いた語句に関する各設問のうち四つの選択肢あるいは複数の組合せから一つを選ぶという形式を採った。各大問には5あるいは8題の小問を設けた。特に、リード文は、受験者にとって、現代社会に見られる種々の重要な現象について認識し理解する契機となるよう、メッセージ性を込めて作成した。その際、読みやすさ、論旨の明快さ、伝えたいメッセージの明瞭さなどに留意しつつリード文を練り上げた。また、リード文を「会話形式」にするなど、受験者になじみのあるテーマや文章をリード文に入れつつ、リード文へ受験者をいざなうように工夫した。これらの工夫は高い評価を得たように思われる。さらに、各設問を構成する選択肢は、できるだけ、問いかけの趣旨に適合した意味をもつように慎重に作成した。

図表の読み取り問題や調べ学習問題も適宜、設問に配置し、受験者が数値やグラフから社会現象の一端を把握し主体的に現代社会の問題に接近してゆく学習態度を重要視した。読み取り問題についても工夫を凝らし、それについては高い評価を得た。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 高等学校学習指導要領の「現代の社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の社会生活と青年」及び「現代の経済社会と経済活動の在り方」領域を中心に、「生涯における青年期の意義と自己形成の課題」、「自己実現と職業生活、社会参加」、「雇用・労働問題」に重点をおいて作題した。リード文では、主題として、青年のキャリア形成に関連して、青年の高等教育機関への進学を増加を取り上げ、その背景にある経済状況の変化について考えることの意

義を理解させることを意図した。そのことを踏まえ、受験者自身が、今、正に臨もうとしている大学や短大への進学という事象には、個人の課題のみならず、産業構造や雇用・労働環境といった社会状況も関与していることに気づき、自らの進学をより意義のあるものにしてほしいというメッセージを込めた。

問1 情報化の進展とそれに関連する事項について、時事的な内容も含めた基本的な知識を問うことを意図した。情報化の進展とそれに関連する事項については多くの高校生が経験的にも知っていることであるはずであるが、時間的な視野の中で整理された知識として定着しているかどうかを問うた。

問2 高度経済成長期について、産業別の就業人口からみたときの特徴を正確に理解しているか否かを問うことを意図した。教科書に掲載されている図表等について、そこで示されている数値の変化の意味を考えながら丹念に見ていなければ正答できない問いであった。

問3 リード文の主題に合わせて、1990年から2000年までの大学進学状況に関連する数値的なデータを素材として、数値的なデータを視覚化するために必要な思考力と判断力が身に付いているか否かを問うた。

問4 青年期についての基本的知識を問うことを意図した。教科書で学習する知識であるが、青年期の発達課題に関する正確な内容を知っておかなければ正答を導けない問いであった。

問5 雇用と労働をめぐる状況についての知識を問うことを意図した。いずれの選択肢も教科書で学習する知識を問うものであるが、雇用と労働に関する法律について、その内容を正確に知っておく必要があるためか、難易度は高かった。

問6 社会保障や雇用についての制度や状況についての知識を問うことを意図した。生活保護などの時事性が高い課題も取り上げており、受験者にとってインパクトが強かったためか、やや平易であったと考えられる。

問7 マズローが提唱した欲求の階層構造についての知識を問うことを意図した。教科書で学習する知識であるが、欲求の名称のみを知っていればよいのではなく、出現順序と内容の双方を知っておく必要があるためか、予想より難易度は高かった。

問8 社会的性格と社会参加についての知識を問うことを意図した。受験者と関わりの深い課題を組み合わせ、教科書で学習する知識を問うことを意図したためか、やや平易な問題であった。

第2問 高等学校学習指導要領の「現代社会に生きる私たちの課題」の資源・エネルギー問題、並びに「現代の社会と人間としての在り方生き方」の「現代の経済社会と経済活動との在り方」を中心に、エネルギーの消費、経済、日本人の生活様式、雇用、政治制度などに重点を置いて作題した。リード文では、混雑が現代社会における様々な場面において様々な形で影響を与えており、現代社会を読み解く上で重要なファクターである、というメッセージを込めた。設問では、エネルギーと消費、需要と供給、日本人の生活様式と雇用、国会や内閣の仕組みなどの領域において、重要性の高い基礎知識を問うた。

問1 エネルギー問題に関する知識を問うことを意図した。

問2 市場に関する知識を問うことを意図した。

問3 日本における生活様式や働き方の特徴に関する基本的知識を問うことを意図した。

問4 電力に関する需要の集中を題材に、図表の読み取りに関する基本的知識を問うことを意図した。

問5 政治の意思決定過程に関する理解を問うことを意図した。

第3問 高等学校学習指導要領の「現代社会と人間としての在り方生き方」の「現代の社会生活と青年」を中心に、少子高齢化社会、社会保障、社会参加などに重点を置いて作題した。リード文では、少子高齢化社会では、社会保障の費用負担増や年金財政の悪化などの影響が指摘されることが多く、高齢者を社会的弱者とみなしがちであるが、高齢者の多様性を示すことで、異なったイメージから今後の社会の在り方を考えることが重要であるというメッセージを込めた。設問では、生命倫理、福祉、社会保障制度、家族、社会参加、などの領域において、重要性の高い基礎知識を問うた。

問1 医療技術の発達と生命倫理に関する基本的知識を問うことを意図した。ここ数年出題されている問題であり、難易度は高くはない。教科書で学習した内容をきちんと理解していれば解ける問題であった。

問2 社会保障制度に関する基本的知識を問うことを意図した。

問3 家族に関する基本的知識を問うことを意図した。時事性の高い内容を含んでおり難易度はやや高い。

問4 高齢者の社会参加に関する意識調査の結果を題材に、図表読み取りに関する基本的知識を問うことを意図した。差ではなく比率を比較させる問題であった。難易度は標準的だった。

問5 社会参加を可能にする環境に関する基本的知識を問うことを意図した。難易度は低かった。教科書で学習した内容をきちんと理解していれば解ける問題であった。

第4問 高等学校学習指導要領の「現代の社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の経済社会と経済活動の在り方」及び「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の領域を中心に、企業の働き、環境保全、貿易の拡大、南北問題、国際協力の必要性や国際組織の役割に重点を置いて作成した。リード文では、感染症問題を例として取り上げ、グローバル化の現代において地球規模の課題とされる諸問題の背景には、先進国と開発途上国の経済格差があること、また我々自身の問題であるとの認識をもってほしいとのメッセージを込めた。設問では、地球環境問題、人の移動をめぐる問題、所得や企業、各国の経済制度に関わる基礎知識、国連やWTOなど、これから地球規模の問題を考えていく上で必要な知識を問うことを意図した。

問1 地球環境問題の解決に向けた国際的な枠組みに関する知識を問うことを意図した。教科書の記述を正確に理解しておけば解ける問題であった。

問2 人の移動に伴って生じる問題に関わる知識を多面的に問うことを意図した。それぞれの事項について正確な理解を求める問題であった。

問3 所得に関する知識を問うことを意図した。

問4 国際連合の制度・仕組みに関する基礎知識を問うことを意図した。基本的事項を理解していれば解ける基本的問題である。

問5 世界貿易機関（WTO）に関する知識を問うことを意図した。WTOに関する多面的な理解を求める問題であった。

- 問6 日本における企業の状況に関する知識を問うことを意図した。
- 問7 市場における価格やその役割に関する知識を問うことを意図した。
- 問8 各国の経済制度や社会資本に関する知識を問うことを意図した。
- 第5問 高等学校学習指導要領の「現代の民主政治と民主社会の倫理」を中心に、日本の国会のいわゆる「ねじれ」現象を題材にとってリード文を作成した。「ねじれ」がもたらす政治的問題や課題を取り上げ、アメリカの連邦議会の例なども比較として出しながら、このような現象が提起する問題を、今後の日本政治の進展に活かす方法を模索すべきであるという結論部へと導いた。
- 問1 国会に関する基本的知識を問う設問である。
- 問2 アメリカの政治制度に関する基本的知識を問う設問である。
- 問3 日本の選挙制度に関する基本的仕組み・制度に関する基礎的知識を問う設問である。
- 問4 日本の国家予算の内容・傾向に関する基礎的知識を問う設問である。
- 問5 国民国家とその社会状況に関する若干多様性をもった設問であるが、基礎的知識を問っているのは変わらない。
- 第6問 高等学校指導要領の「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の民主政治と政治参加の意義」領域及び「個人の尊重と法の支配」領域に関する基本的問題を取り扱った。リード文では、問題の最後ということで、会話文とし、政務調査費をベースに情報公開のメリットデメリットを挙げた。
- 問1 日本の地方自治に関する知識を問うことを意図した。教科書をベースに知識を問う形式である。
- 問2 日本の司法制度に関する知識を問うことを意図した。教科書をベースに知識を問う形式であるが、一方で時事問題が制度上どのように位置付けられているのかを知ってもらうための出題している。
- 問3 日本の情報公開及び個人情報保護の知識を問うことを意図した。教科書をベースに知識を問う形式である。
- 問4 日本の憲法の人権や統治機構に関する基本的知識を問うことを意図した。教科書に基づき知識を問う形式である。
- 問5 日本のインターネットに関する基本的知識を問うことを意図した。教科書に基づき知識を問う形式である。

3 出題に対する反響・意見についての見解

第1問 「進学背景としての経済状況」をテーマとしたリード文については、「大学に進学することの意義を考えてほしいという出題者のメッセージも含まれている」との評価を得た。大学に進学するに当たって、そのために必要な入学者選抜試験の場において大学に進学することの意義について改めて考えることで、大学への進学という選択が一層実り多きものになってほしいとの出題者の意図が理解されたと認識している。

問1については、「パソコンの世帯普及率についての判断は受験者にはやや難しく感じられたかもしれない」、「パソコンの世帯普及率が1990年代に50%を超えたかどうかを知って

いることがほかの選択肢と同様に重要な知識なのだろうか」との評価を得た。出題者の意図としては、日本においてパソコンが普及したのは過去10年間においてであり、その背景として価格の低下があったことまでを知識として備えておいてほしいということであった。

問2については、「第二次産業の就業人口の割合については、正確な知識が求められ、受験者には盲点であったのではないか」という評価を得た。出題者としては、受験者の多くは、高度経済成長を牽引したのが第二次産業であることを知っているが、産業別の就業人口では、(経済のソフト化・サービス化以前である)高度成長期に既に、第二次産業ではなく第三次産業の方が大きかったことまで正確に理解している者は多くはないと推測していた。

問3については、「グラフの特色の理解にとどまらず、思考力・判断力も要求される良問である」、「学び方を学ぶ、調べ学習の方法を学ぶ、というこの科目の特徴に即した問い」との評価を得た。出題の意図が正しく理解されたと認識している。

問4については、やや細かい知識であるとのとの評価を得た。しかしながら、教科書で学習する事項であり、青年自身の発達課題を詳細に知っておくことは必要な知識かつ教育的メッセージでもあるという観点から、重要な出題であったと考える。

問5については、標準的な問題である、一見難しそうに見えるが選択肢を丁寧に見ていけば正しい記述と誤りを含む記述は明快であるとの評も得た。法制度に関する正確な内容を理解することを意図したため、この点を評価されたものと考ええる。

問6については、教科書で学習する事項を基礎に時事的要素を取り入れた作題意図について、評価された。一方、適当でないものを選ばせる妥当性があるか、社会保険制度について問う方がよい、との評も得た。この点については、記述に正確性を期す必要性等からもたらされた結果であるが、工夫の余地があるかは課題として残される。

問7については、「既習の知識と具体的な事例を組み合わせなければ解答できない良問」との評を得た。本学習内容は過去に幾度か出題されているが、本問ではすべての欲求について、その欲求が意味するものと出現順序を正しく理解しているかを問うことを意図した。そのような作題意図を反映し、出題方法に工夫を加えた結果、高い評価を得たと考える。

問8については、出題分野の違いが大きいという評については、多角的に「自己と社会との関係」を考えさせる意図による。一部、連続出題であること、「現代社会」では難しいことも評された。教科書で学習する重要課題で問う意義は高いと考えるが、出題形式等に工夫の余地はあると考える。全体の方針は、新学習指導要領を意識しているのではないかとの評も得ており、重要な問いであったと考える。ただし、適当なものを選ばせる方がよいという評も得た。この点については、記述に正確性を期す必要から生じた結果であるが、更なる工夫を心掛けたい。

第2問 リード文は「現代社会ではこのような視点で経済を捉えてほしいという作題者の思いが込められた現代社会の特性が見事に表れた非常に良質なリード文」との評価をいただいた。作題者は、混雑が現代社会を読み解く上で重要なファクターであるというメッセージを伝えたかったので、このような評価をいただき大変嬉しく思う。

問1については、「平易な問題」との評価をいただいた。「中国の一人当たりの年間エネルギー消費量がイメージできれば判断は難しくない」、また「問いの作り方としては丁寧さを

欠くと思われる」という意見をいただいた。作題者としては、工夫の必要があったと考える。

問2については、「需要と供給に関する思考力・判断力・応用力を問うやや難しい問題」という評価と「①のみの表現の中に重要と供給という言葉が見られず他の選択肢と比べ異質であり、内容を知らなくても正解が分かる」という評価をいただいた。作題者としては、より工夫する必要があったと考える。

問3については、「日本における生活や働き方に関する知識を問う基本的な問題」との評価をいただいた。「四つの選択肢が余りにもかけ離れていないか」という指摘もいただいた。作題者としては、混雑現象の背景として、都市への人口集中、労働と余暇生活（お盆や正月の帰省、海外旅行）の状況について理解させることを意図して作題したが、一層の工夫が必要であったかと思う。今後、作題をする上での課題としたい。

問4については、「グラフを読み取る平易な問題」であるが、「電力を取り上げ、地域ごとの違いを認識してもらいたい」という作題者のメッセージが込められた思考力・判断力を要する良問」という評価をいただいた。作題者の出題意図が評価していただけたものと考えている。

問5については、「基本的な問題」との評価をいただいた。正答の②は「義務教育レベル」との指摘を受けて、作題者としては、より工夫する必要があったと考える。

第3問 リード文については、「長寿社会と高齢化を使い分けているのはなぜか」という問いをいただいた。「長寿社会」は、「平均寿命が延びて、人々が長寿を享受できるようになった社会」という意味で、長生きすることのプラスの側面を強調するために用いた。一方、「高齢化」は「社会全体で高齢者の割合が増加すること」であり、長寿社会と高齢化は同じ意味ではない。また、高齢化は少子化が進んでいる現在の日本の社会の中では、マイナスのイメージで捉えられることがあり、そうした点を意識して書き分けた。

問1については、「平易な問題」「生命倫理に関する問題については非常に配慮されている」との評価をいただいた。作題者として、配慮の必要な分野だけに、様々な視点から検討することを心掛けたが、それを評価していただけたものと考えている。ただし、①については、「『など』としていることからどのような目的でも正文となるヒントになる」との意見もいただいた。今後、作題をする上での課題としたい。

問2については、「標準的な問題」で「日本の社会保障制度に関する正確で基本的な知識が求められている」との評価をいただいた。問うている内容自体は教科書レベルの標準的なものであり、出題内容としては適切であったと考えている。

問3については、「日本の家族の状況に関する時事を含む知識を問う基本的な問題である」との評価をいただいた。ただし、③は「重要な内容だが高校生には難しいかもしれない」との評価もいただいた。家族の状況として、時事性の高い児童虐待についての内容を問うことを意図したが難易度はやや高かった。多少細かい点を取り上げたきらいはあると思われる。

問4については、「標準的な問題である」が、「グラフを丁寧に読みとる力が求められる」との評価をいただいた。増加率を問う問題で、差ではなく比率の計算が必要なことから、誤答が多かった。この点ではより工夫することが必要であったと考える。しかし、「高齢者の

生き方あり方をグラフから考える思考力判断力の問い」との評価をいただき、出題者の意図を伝えることができたと考える。

問5については、「思考力・判断力・応用力を問う基本的な問題」で、「法律名やそれに関する数字を問うのではなく、法律の目指しているものを問う出題の方向性は高く評価できる」との評価をいただいた。様々な人たちの社会参加を促進する制度や政策があることを理解してもらいたいという意図を込めて作題したので、作題者としてこのような評価をいただいたことは嬉しく思う。「適当でないもの」よりも「適当なもの」を選ばせる問題の方が好ましいという御意見もいただいているが、法律の目指すものを広く問う内容であるため、「適当でないもの」を選ばせる問題にも教育的な効果があるように思われる。

第4問 標準的な問題だが、リード文にはなじみの薄い用語があると指摘された。受験者には厳しかったという総評をいただいた。他方で、各問の選択肢が寄せ集めの印象を与える傾向があるとの指摘もいただいたが、地球規模の課題の解決に向けて考えていく場合に、必須の知識という観点から出題しており、その点を評価していただけなかったのは大変残念である。今後の作題上の課題であろう。

問1は、条約の内容などを、正確に理解していなければ判断が難しく、やや難しい問題との評価を受ける一方で、いずれも基礎的基本的な知識を問う平易な問いとの評価も受けた。京都議定書は、時事的にも重要事項であり、そのメカニズムの内容までしっかり押さえてほしい。

問2は、国際社会での人の移動について時事を含む知識を問うやや難しい問題であるとの評価を受けた。正答の選択肢の表現に工夫が求められるとの評価も受けたが、紛れのない正確な命題にするためには致し方のないことであった。

問3は、基本的な問題との評価を受けた。時事問題も含めて、「現代社会」らしい問題になったように思われる。

問4は、平易な問題との評価を受けた。国際連合の基本的な知識の理解はこれからも重要になると思われる。

問5は、平易な問題との評価を受ける一方で、やや難しい問題であるとの評価も受けた。紛争処理機能も含めて、WTOの多面的な理解を問うことに意義があったと思われる。

問6は、基本的な問題との評価を受けた。所有と経営の分離などの基本的な知識を問うことに意義があったと思われる。

問7は、平易な問題との評価を受けた。プライス・リーダーなどの基本的な用語を知っているかを確認することに意義があったと思われる。

問8は、標準的な問題との評価を受けた。年功序列賃金などの、若者にとって重要な事項を知っているかを確認することに意義があったと思われる。

第5問 時事的問題も含まれるが、問題は全体的に基本的で平易という評価をいただいた。

問1は、教科書の範囲内で解答できる基本的問題であるという評価である。

問2は、時事を含む基本的で標準的な問題であるという評価である。

問3は、選挙制度に関する基本的問題であったが、「倫理、政治・経済」の一部の問題文の内容との重複があり、結果的に受験者全員に加点するという措置がとられた。遺憾であ

る。

問4は、時事的知識も要求されるが、基本的には標準的な問題であると評価されている。

問5は、教科書をきちんと勉強していれば解答できる基本的問題であるとの評価である。

第6問 リード文に関しては、政治分野に関する知識を問う平易な問題あるいは基礎的基本的な問題との評価をいただいた。

問1については、平易な問題であり、また、時事的な内容に関心をもつ受験者は容易に正解できた、との評価であった。時事的な問題にも触れつつ、問題を作成したが、難易度を上げる工夫が必要であったかもしれない。

問2については、基本的な問題であり、教科書の内容をしっかりと理解していれば、解答できる、との評価をいただいた。当該分野には、裁判員制度の導入など、関心の高い分野であり、問題作成としては適切であった、と思われる。

問3については、標準的な問題であり、教科書の内容が理解できていれば、判断ができるとの評価をいただいた。ただ、情報公開における開示の請求権者を問う問題に関しては若干難しいとの評価であり、問題作成におけるバランスの難しさがある。今後の課題としたい。

問4については、教科書の内容であり、平易な問題及び基本的基礎的な問題である、との評価をいただいた。難易度を上げる工夫が必要であったかもしれない。

問5については、基本的な問題であるが、教科「情報」と重なる箇所があり受験者には判断しやすかったのでは、との評価をいただいた。また常識であるとの評価もいただいている。この分野の出題については、他科目との重なりがあり、調整が難しく、更なる工夫が必要かもしれない。

4 ま と め

本年度もこれまでの年度と同様に、高等学校学習指導要領に従い、教科書に準拠した問題作成を実施した。その際、「現代社会」という科目の特性を考慮に入れつつ、学問的正確さと政治的中立性に配慮し、受験者が知っておくべき項目に偏りがないように作題した。また、受験者になじみのある現代的テーマや時事的問題も盛り込むように努めた。

今後の作題においても、このような方針を踏襲してゆくが、思考力を問う問題を適宜挿入するように努めたい。また、リード文と各小問とがつながりを持ち、できる限り密接な関係を持つように、小問設定の際に留意したいと考える。